

【令和5年度12月実施】

アンケートへのご協力ありがとうございました。結果を受けて、保護者、生徒、教師の三者で共有し、今後、向上や改善に取り組んでいきたいと考えています。昨年度の結果と比較して気になった項目や小学校と連携して取り組んでいきたい項目について、以下のようにまとめました。

【生活】にかかわって

・No.1 学校生活を楽しんでいるか

保護者・生徒ともに前回と同じ結果でした。また、教師回答者全員がA評価・B評価でした。校長が年度当初掲げた「楽校(がっこう)」を意識して日々の学校生活をつくりあげていると感じております。思春期真っただ中の中学校生活は、様々なことに心が揺れ動く時でもあります。こうした思うようにならないもどかしさやいくつもの困難を乗り越えるスキルを身に付けるような「楽校」を全員でめざしていきます。

・No.2 時と場に応じた挨拶・言葉遣い

保護者(－6ポイント)・生徒(+7ポイント)であり、前回とほぼ同じでした。登校時の挨拶について、「自分から」・「ハツラツ」といった姿が少しずつですが増えてきました。

A評価・B評価について保護者(80%以上)、生徒(90%以上)ともにほぼ昨年度と変わらない結果でした。学校生活において、教師や来校者に対して敬語で話すよう姿が意識されていますが、現状で良しとせず、場に応じた言動をその都度指導しております。卒業後、生徒一人一人が進む先々で通用するような土台づくりをしたいと考えております。

・No.3 社会のルールを守っているか

前回と変わらず、保護者・生徒・教師ともにA評価・B評価は100%でした。引き続き、社会のルールを遵守することへの意識を維持していきたいと考えております。

【学習】にかかわって

・No.4 自分の考えや思いを人に伝えることができるか

生徒のA評価・B評価が94%と大きく向上しています。授業で発言する場面において、聞き手を意識した伝え方や話し方を工夫することがその要因であると考えます。その一方で、保護者や教師からは、今後のさらなる成長に期待するといった結果でした。生徒が話す内容について、伝わっている内容と足りない部分について、その都度指導していきたいと考えています。家庭におかれましても、お子さんの話す内容について気づかれた点があれば伝えていただければ幸いです。

・No.5 家庭学習での習慣

保護者・生徒ともにほぼ前回と同じ結果でした。授業中或いは授業直後であれば「できた」「わかった」ことが、単元テストや定期テストの結果につながっていないこと。学習課題(宿題)が期日までに提出できないこと等、十分に改善できていないことがあります。学級担任との個別懇談だけではなく、少人数の学校であることを生かした、教科担任からの個別指導・個別相談なども継続していきます。授業づくりや指導方法など教師同士でも学び合いながら、全体の底上げを図っていきたくと考えております。また、前回お伝えした次の2点にも引き続き取り組んでいきます。①テストの結果表を作成し、得点の変遷を視覚化することで、教科ごと或いは5教科の目標を設定しやすくすなり、主体的に学習に臨めるようになりつつあります。②設定した点数に届かなかった場合は、再テストを行ったり学習課題を課したりするなど、学習内容の定着をめざし、個に応じた指導を行っています。

・No.6 読書習慣

保護者・生徒ともに、前回より向上しております。家庭教育学級主催の「読み聞かせ」や学習委員会の取り組み、PTA主催の「親子でチャレンジ～親子読書～」といった活動などの効果もあったかと思えます。しかし、生徒から「読書の時間が確保できない」といった意見がありました。現在学校でも朝読書の時間を位置付けておりますが、その内容や「学校図書館」や昨年度から始まった「中央図書館」の利活用の仕方も見直していきたいと考えております。また、下校後や休日の過ごし方の一部に読書の時間を設けるような生活づくりできたらと考えております。

・No.9 確かな学力の定着、・No.10「ICT機器」の活用

生徒のA評価・B評価あわせて94%と若干向上しました。また教科毎に授業展開や提示資料・ワークシート等、アナログとデジタルを効果的に使い分けて指導しています。そのため、授業時間における指導の手応えはあるものの、No.4で述べたように定着には至っていないことが課題です。そのため、学んだことが確実に定着したかを図る「アウトプット」の場を位置付けたり、家庭学習においてその日の授業内容を復習したりするようにさせたいと考えます。また、3年目となった一人一台の情報端末についても、改めて使用上のルールの徹底や12月の情報モラル教室で学んだことを意識させた上で有効に使っていきたくと考えております。そんな中、市内に限らず、全国的に貸与されている情報端末の扱いが悪く、故障や破損事案の大幅な増加が問題となっている中、本年度こうした事案が発生していないのは、生徒が大切に扱っている証です。情報端末に限らず、物を大切に扱う姿勢を継続していきたいと考えております。

【その他】

・No.7 自己肯定感 ・No.11 よさや頑張りを認めたり、相談に応じたりしている

No.7では、A評価、B評価、総合評価点について、保護者・教師は前回と変わらずでしたが、生徒の評価は向上しました。No.11では今回も保護者、生徒ともにA評価、B評価併せて100%でした。今後も、生徒自身が自分の良さを実感したり、困りごとには個別に対応したりするように参ります。保護者の方も何かございましたらご連絡ください。

・No.12 自分でもやると決めたことは、やり遂げるようにしている ・No.13 難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している

生徒の評価前回よりも4ポイント+ですが、保護者や教師からの評価と10ポイント程度差があります。今後、客観的かつよりシビアに自信を評価する視点をもたせる必要があると感じました。前回述べた通り、指導や助言といったサポートを保護者(家庭)と教師(学校)が連携して行っていきたいと考えています。

【保護者からいただいたご意見等】

- A.・自宅ではあまり家庭学習や読書をしている姿が見えません。自分から進んでやれるようになってくれるといいです。自分で時間をくぎってだらだらとゲームや携帯を見る時間を短くできるといいなと思います。・あまりたくさん勉強しているところを見ないから(部屋でやっているのか?)声をかけても勉強を始めるまで時間がかかる。やり始めても他の事に気を取られてしまう。改善方法を教えて欲しい。・教科によりですが、学年全体のレベルが一定に達していないため。
- B.・本が嫌いだから
- C.・生徒も親も、なぜ2学期制なのかあまりわかっていない気がします。良さも含めて話題にしまわうといいかと思えます。
- D.・No.15について、夏のWBGT値が高い際(6回程ありました)に下校時刻を変更して暑い中を帰らせるよりも、エアコンを効かせた教室で勉強させ、涼しくなってから下校させるように改善を。・9/20、大雨や雷の発生が高い時も歩いて帰宅させるのはいかがなものか?大雨や雷が危険であるにもかかわらず、引き渡しなどの方法もあったと思います。働き方改革も大切ですが、子どもたちの安全にも配慮をお願いします。
- E.・学校生活は楽しく送れていると思います。ただ、少し難しいこと、面倒なことがあると考えることもしない。「やればできる」ということを学校と一緒に指導していきたい。
- F.・毎日、子どもたちに温かく寄り添ってくださり、ありがとうございます。

【中学校より】

- A.学習にかかわってNo.4・5・9でも述べた通りですが、3者懇談の場に限らず、学習に関する心配ごとなどありましたら学校までご相談ください。家庭と学校で連携していけたらと考えております。
- B.読書について、PTAの活動でも様々な試みをして頂きありがとうございます。No.6で述べておりますが、生徒が本に親しめるような環境・機会を設定していきたいと考えております。
- C.本校では数年前から前後期制となりましたが、ご指摘の通り、生徒や保護者の皆さんへの説明が不十分であったかと思えます。そこで、前後期制(二期制)のメリットについてまとめてみました。
- 「前後期制のメリット」学習の効果的な進捗と生徒の理解を促進する点があると考えます。前期では基礎的な知識の獲得に焦点を当て、後期ではより高度な内容や応用力の向上に取り組めます。これにより、生徒は段階的に学習を深め、より良い理解を築くことができます。また、保護者には子供たちの学習の進捗がわかりやすく、定期的な進捗報告が行いやすい仕組みとなっています。(3学期制の期末テストは6月、11月、2月の三回の定期テストで広範囲。一方、前後期制は中間テストを実施するため、年間に4回の定期テストとなり範囲が狭まるため、より深い内容を出題できる。年間で4回進捗報告ができる。)また、本年度より通知表に記載される評価(観点別評価・五段階評価)を10月は中間、3月に年間としました。こうすることで、中間評価によって生徒は早い段階で自分の学習状況を把握できます。また、教師も生徒の弱点や進捗を把握しやすく、個別のサポートにつなげることができます。3月の年間評価では、生徒は全体の学習過程を振り返り、総合的な理解を深めることができます。進学や進級に向けた具体的なフィードバックが得られ、それに基づいて今後の目標を設定することができます。保護者にとっても、子供たちの年間を通じた学習の進捗が把握しやすくなると考えます。本校では、これまで通り1年を春学期、夏学期、冬学期を節目としておりますが、評価や学級組織につきましては前述の通り、前後期制の方がメリットがあると考え現在に至ります。
- D.大雨の季節には度々引き渡しによる下校としましたが、ご理解・ご協力して下さりありがとうございました。ご指摘頂いた「猛暑」「雷雨」につきまして、ご心配をおかけしてしまい申し訳ございません。過去に発生した気象への対応や最新の気象情報を参考にしつつ、生徒の安全を最優先に考えた対応をして参ります。気象状況以外にも「熊の出没」に関する対応を例年以上にして参りました。市教委の指導の下、学校で作成しております危機管理マニュアルに沿って、様々な危険・危機(不審者や弾道ミサイル等)にも対応できるような訓練を検討していきます。
- E.No.1で述べさせた通り「楽校」を全員で共有して、実現をめざしつつ粘り強く困難に立ち向かう姿勢も身につけさせたいと考えています。学校でも生徒一人一人に「やればできる」という自分の支えになるようなものを身につけさせたいです。
- F.至らない点もあるかと思いますが、こうしたお言葉を本当に嬉しく思います。今後とも全職員で生徒の成長につながるよう取り組んでまいります。

今後とも、一人一人の良さを認め・価値づけ、自己有用感を高められる指導となるよう努めて参ります。ご理解・ご協力の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。